

2006.9.1

第1回 岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準化委員会

日時：平成18年8月23日

場所：地盤工学会 地下B会議室

参加者（敬称略）：

江崎，楠見，岡田，上西，鈴木，西山，平川，船戸，矢島，矢野，吉田，若林，
三谷（文責）

配付資料

資料1 - 0：議事次第

資料1 - 1：委員名簿

資料1 - 2：平成17年度岩盤不連続面の室内せん断試験基準検討委員会報告書

資料1 - 3：委員会活動計画

資料1 - 4：岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準 ver.0

議事録

1. 委員会趣旨説明

- ・ 昨年度の成果，委員会設立の趣旨等について資料1 - 2を用いて三谷委員より説明があった。

2. 委員会メンバー自己紹介

- ・ 各委員の自己紹介を行った（資料1 - 1）。西山委員より9月から愛媛大学へ所属が変更になるとの報告があった。連絡先については，後日連絡することとした。

3. 委員会活動計画と検討方針について

- ・ 資料1 - 3をもとに2カ年の委員会活動計画について三谷委員から説明があった。
- ・ 基本的な活動方針，委員会の開催時期について，基本的に了承した。
- ・ 原稿を提出するにあたって親委員会の日程が重要となるので今年度の日程を確認する（三谷委員から川崎先生へ）。

4. 岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準について

資料1 - 5をもとにフリーディスカッションを行った。

この中での主な議論を以下に示す。

- ・ 基準の大項目について基本的に了承し、この内容で基準を作成することとした。
- ・ タイトルについて、直接せん断試験もしくは一面せん断試験と明確に記述した方がよいのではないかと。定義については、土質の分野では、直接せん断試験は、一面せん断試験を含む包括的な用語として定義されている。しかし、岩盤の分野では直接せん断試験でよいのではないかと。これについては、関係者で今後議論を行う。
- ・ 対象とする不連続面の定義を「1.適用範囲」の中で正確に記述すべきである。
- ・ 供試体として、レプリカ試験体を入れるべきかどうかという意見に対しては、基準内には不要であるが、解説で記述することとする。
- ・ せん断試験の方法として垂直応力一定試験、垂直剛性一定試験の2つが考えられるが、基準ではどのように記述すべきかどうかという点について、どちらでも使えるような基準を作るのはよくないという意見で合致した。2つの試験方法があるなら、2つの試験方法を記述すべきであるし、委員会の中で基準とすべき試験方法を1つに絞るなら絞るべきである。基本的な路線として、基準は1つであることが理想であることとまとめた。必要があれば解説等で記述を行うこととする。
- ・ 試験方法と同様に、荷重の載荷方法（多段階載荷と一定荷重の試験）、せん断変位の与え方など細かなことを考えるとそれぞれに対して必要な基準を作る必要があるが、作成した基準を基に数多くのデータが出せることが第1条件であるとするなら、基準としては、推奨すべき方法を1つ記述することとする。
- ・ 基本路線として、垂直荷重は一定荷重載荷、複数のサンプルを使用することとし、この基本方針で対応できない部分は解説で記述する方向で対応することとする。

今回の基準 Ver.0 をベースに Ver.1 の作成を行う。担当は、以下のとおりとする。

「1.適用範囲」、「2.引用規格」、「3.定義」：江崎委員

「4.試験装置」：楠見委員，岡田委員

「5.供試体」：鈴木委員，若林委員，三谷委員

「6.試験方法」：矢野委員，船戸委員，吉田委員

「7.試験結果の整理」：西山委員，平川委員

「8.報告事項」：上西委員，矢島委員

各項目から1.～3.に関連する項目が抽出された場合には三谷委員へ連絡

することとする。

基準の修正と平行して、解説の目次案を作成することとする。

これらの締め切りを9月末とする。遅れる場合には三谷委員へ連絡を。

5 . その他

- ・ 平成 18 年度版基準書・解説書を持たれていない委員のために委員会経費で購入する。
- ・ 次回委員会を 11/13 (月) 13 : 30 ~ 地盤工学会にて開催予定

以上